

6/19 木

沖縄では、岸田文雄政権が安保能力を保有を決めた敵基地攻撃能力を持つ最距離//カミルをめぐり、「配備されれば相手国からの攻撃の標的となる」と懸念が強まります。玉城市長は「沖縄県知事は、敵基地攻撃能力を有した兵器を購入し配備しならじむを求める要請書を岸田国務大臣に提出しました（のと）。沖縄の地元紙は、知事の要請について「都道府県が配備反対を伝えたのは初めて」で、「沖縄の民衆を踏まえた行動」と評しています（琉球新報13日付）。岸田政権は、沖縄の声をなげかげたとしておなづかせん。

知事が配備反対を表明

政府は、中国を念頭に、沖縄をはじめとする地域での自衛隊増強を

沖縄の軍事力増強

三 張

れいっしで進めてこます。

陸地から艦船を//サイルで攻撃する陸上自衛隊の対艦説導弾部隊も、南西島嶼（鹿児島県）に駐屯する奄美大島（鹿児島県）に駐屯する沖縄県（沖縄県）に既に配備され、沖縄本島のひめゆり市に配備され、今年度末までに配られようとしています。これらの部隊も、[12] が、南西地域の対艦説導弾部隊に組み入れられるのです。

防衛省は、「南西地域への部隊配置は抑止力となり、攻撃される可能性を減らす」などもございまして、「抑止力」とは相手国に外交による平和構築」を求める戦略的な軍事力を「抑止」として「アジア太平洋地域の課題を解決する」といった強い立場だなんじと云つながら」と指摘して

ます。

軍事競争がエスカレートし、偶発的衝突の危険が増大します。回ミサイルは、安保の文書に基づいて、知事の要請書が「抑止力の強化がこれまで地域の緊張を高める戦略化が計画されています（F-15C地対艦説導弾能力向上型）。

米軍再編・強化と一体で、F-15Cの戦闘機の退役と伴う暫定的な代替機として、最新鋭ストライク戦闘機F/A-18E/F-35Aをはじめ、核攻撃能力を持ったF-15Eなどが次々配備され、耐え難い爆音をまき散らしています。

在沖縄米軍の再編・強化の動き

式地対艦説導弾」と座ねる//かイルを装備してしまいます。

回ミサイルは、安保の文書に基づいて、知事の要請書が「抑止力の強化がこれまで地域の緊張を高める戦略化が計画されています（F-15C地対艦説導弾能力向上型）。

米軍再編にかかるて日本政府は、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。この構造は、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

米軍再編にかかるて日本政府は、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

米軍再編にかかるて日本政府は、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

再び戦場にするなの声大さく

トニー・知事は今回の要請で、沖縄の基础设施の解消、米軍再編計画についての説明、米空軍那覇空港基礎の最新鋭機配備に伴う施設

建設への対応などを求めました。

米軍再編にかかるて日本政府は、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

「沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

これが、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。

これが、沖縄を南北に分けて、沖縄本島の東側と西側の2つの島嶼で、米軍の防衛構造を強化する方針です。